



# 学校だより

## CONTENTS

巻頭言 困難な時こそ、夢を大切に! / 校長 山崎 誠	2
特集<入学・進級特集>	
新生へへのメッセージ	2
令和3年度本科新入生出身中学校・専攻科出身学科一覧	6
留学生紹介・令和3年度行事一覧	7
各学科・専攻科入学にあたり	8
教職員より (各学科・教育研究支援センター・事務部)	14
各学年主任より	19
着任挨拶	20
各施設から	23
学生相談室 / 図書館 / 情報基盤センター / 国際交流室 / ダイバーシティ推進室 / インターンシップ支援室 / 進路支援室	
NEWS&TOPICS	26

第123号

2021.6.25 広報委員会発行



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**群馬工業高等専門学校**  
 National Institute of Technology (KOSEN), Gunma College

〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580番地 <https://www.gunma-ct.ac.jp/>

(題字・下田 功 初代校長)



校長 山崎 誠



本科および専攻科新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年度、1年生として207名、4学年編入生1名、3学年編入生2名(マレーシア、モンゴルからの留学生)を本校に迎えました。また、39名が専攻科に入学しました。

高専は大学と同じ高等教育機関で、10代後半から専門教育を行う早期技術者教育を大きな特長としています。教育課程や教育方法には様々な工夫がされており、高学年になるほど専門の講義や実習が多くなるくさび形教育課程となっています。ものづくりの技術を身に付けるには、技能に加えて知識、すなわち理論も理解することが大切です。理工系の勉強は基本的に積み上げです。日々の努力を積み重ね、地道な取り組みこそ最後に実を結ぶことを忘れて下さい。学習習慣をきちんと身に付けること、日々の予習復習が大事です。それには、将来の夢、目標を持つことが大切だと私は思っています。

専攻科では、専門分野における高度の授業を受けるとともに、研究室での研究生生活が中心になります。専攻科新入生の皆さん、教員と共に研究し、研究成果を学会や論文誌に発表して下さい。本科での勉学を土台にし、しっかりと専門知識を身につけ、学習や研究の活動において創造性を発揮して下さい。

学校では、人間性を磨くことも大切です。学校の授業だけでなく、ロボコン等のコンテストへの出場やクラブ活動

に参加するのも良いでしょう。留学生との交流や、今年は未だ難しいかもしれませんが、海外研修に参加する等、国際性を高めるのも良いと思います。

新型コロナウイルス感染症が世界中に広がって1年以上が経ちましたが、感染が収まる状況ではありません。コロナ禍にあって、学生の皆さんがすべきことは、コロナウイルスの感染防止対策をしっかり行うこと、そして将来に備えて学習を積み上げることです。当面、感染対策をした上で通常授業を実施します。毎日の検温をはじめ健康管理をしっかりして下さい。今後、状況が厳しくなった場合には遠隔授業に切り換えることもあると思います。困難な状況があっても、学生の皆さんが学習を継続できるよう対応していきます。困ったことがあれば、身近な教職員に相談下さい。

群馬高専は皆さんの夢を実現する学校です。全ての学生の皆さんが、将来、技術者・科学者として活躍できるように、私たち教職員は、保護者や関係者とともに支援していきます。

特集 入学・進級特集

「読み書きそろばん」

教務主事 辻 和秀



一年生の皆さん、入学後数ヶ月がたち、群馬高専の生活に少し慣れてきたころだと思います。皆さんも実感しているように、群馬高専は自由な学校です。靴下の長さや髪型の規則はありませんし、制服もありません。校内の行動も、ほぼ自由です。休み時間にジュースを飲むのもアイスを食べるのも自由です。そして、重要なことは「勉強の自由」があることです。好きな勉強、つまり興味をもった勉強をする余裕(自由)があります。朝は読書をして、夕方は英単語を覚えて、と事細かな指示はありません。「こう勉強すべし」というはっきりとした目標も示しません。なぜなら、群馬高専は自分の興味をもったことを、自ら学ぶ自由がある学校だからです。では、

なぜ授業が? なぜ課題が? なぜレポートがあるのでしょうか。それは、興味のあることを勉強する時の基盤になるからです。文字が読めなければ、本もネットも読めません。かけ算ができなければ、その先の算数、数学はできません。それと同じです。今勉強していることは、科学技術を学ぶ上での「読み書きそろばん」です。皆さんも、科学技術の「読み書きそろばん」を修得して、楽しく刺激的な「その先」へ進みましょう。

入学おめでとうございます!

学生主事 櫻岡 広



本科および専攻科の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。とは言っても、皆さんは昨年1年間、新型コロナウイルスのために普段とは違う生活を強いらられ、その生活はまだしばらく続くことになると思います。

しかし、過去に多くの感染症が流行しましたが、収まらなかったことはありません。もうしばらくの辛抱をお願いします。

さて、昨今「思考力」という言葉が多く世の中をにぎわしていますが、「思考力」とは何でしょうか? 測れるものでしょうか? 鍛えられるものでしょうか? 私は、一朝一夕に測れるものでも鍛えられるものでもないと思います。「思考力」を身

に付ける場合、そのベースとなるものは、やはり「知識」だと思います。

私の趣味はゴルフですが、ゴルフは1打1打同じように打っているように見えますが、ボールの置かれた状況で姿勢や打ち方を変えなければ、良い結果は望めません。その状況に応じた打ち方を身に付けることを「引き出しが増えた」というような表現をします。

皆さんは、この学校で「知識の引き出し」を増やして下さい。この学校にいる時間は、知識の引き出しを増やすための時間です。これから先、皆さんはいろいろな問題に直面していくと思います。その時に、自分の「引き出し」から「知識」を出して考えて下さい。そして足りなければまた、「知識」を増やして、そしてまた考えて下さい。これを繰り返していけば、自ずと「思考力」は鍛えられるものだと思います。

「入学おめでとうございます」

寮務主事 榎本 弘



1年生の皆さん入学おめでとうございます。この文章を書いている4月下旬は3度目の緊急事態宣言が発令された直後です。発行は6月下旬予定ですが、その時の社会状況を不安に思いつながりながら前進して行きたいと思っています。

高専での生活には馴染んできたでしょうか。最初はとても長く感じた90分授業や実験実習も少しは慣れてきたころと思います。ガイダンスでも話しましたが、疑問点を全て先生に質問に行くのは(正直)大変でしょう。その時、ちょっとした事を気軽に聞ける友人の存在は貴重です。クラスの全員と親しくなる必要はないかもしれませんが、自分から声をかけ、気の合う友人を増やしましょう。何気ない会話からでも気分が楽になる

と思います。皆さんにはどのような5年間が待っているのでしょうか。勉強はもちろん大切ですが、生涯友人と思える仲間を是非在学中に見つけて下さい。

最後に寮としてお願いになります。寮内への通学生の無断立ち入りは厳禁です。これはいかに親しい間柄であってもダメです。

専攻科は世界へのとびら

専攻科長 太田 道也



令和3年度新入学生の皆さんご入学おめでとうございます。

皆さんは工学系大学3年・4年生相当の専攻科に入学されました。2年間にわたる特別研究やインターシップ、企業の第一線で活躍されている

方々による企業論や総合工学といった実践的授業、課題解決型の学生実験など、僅か2年間ですが、専攻科は大学とは一味異なった特色あるカリキュラムで構成されています。一方で、近年、環境問題やパンデミックの様相を呈する新型コロナウイルス問題など、我々の生命活動にかかる難題に世界中の研究

者が一刻を惜しんで取組んでいます。また、火星移住計画にはじまる宇宙開拓時代の到来が現実味を帯びてきました。今や世界が活躍の場となるSDGsの時代です。専攻科はそうした将来を見据えた基礎を培う場です。昨年度末に専攻科棟3階の専攻生室には、オンラインで世界が繋がる時代にふさわしく、グループディスカッションやプレゼンテーションの練習、オンラインで学会発表や対話などができるような設備を充実しました。放課後には、『英語で専門分野の授業を聴く!!!』という国内外の著名な研究者が英語で研究分野を紹介する授業形式の講演会も連携教育の一環で開設されています。グローバル化を体現できる環境がそろってきていますので、専攻科の2年間をぜひ有効活用して頂きたいと思います。

皆さんが有意義な2年間を過ごせるよう我々はバックアップしますので、ぜひ、世界へのとびらをたたいてください。



# 特集 入学・進級特集

## 入学おめでとうございます



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年度から本校の研究・地域連携推進を担当する物質工学科の平です。よろしくお祈りします。皆さんは、科学技術者になることを目指して、本校に入学してきたと思います。その「目標」を一緒にかなえましょう！群馬高専を卒業した先輩の多くは、実際に科学技術者になっています。だから私は「夢」という言葉より、現実的な「目標」という言葉を使いました。

校長補佐(研究・地域連携推進担当) 平 靖之

ただし、その目標を達成するためには、受け身の姿勢で授業を消極的に聞いているだけでは十分ではありません。積極的に自ら学ぶ姿勢を身に付けましょう。実験・演習・実習によって、実践的な学習に取り組みしましょう。最終学年である5年生では、卒業研究に取り組みます。研究は、世界中で誰も答えを知らない課題について、自分の手で明らかにしていきます。とてもやりがいのあることだと思いませんか？自分には難しいと不安に思った人もいるかも知れませんが、高専教員は現役の研究者ですので、皆さんの卒業研究をサポートします。皆さんには明るい未来が待っていると信じています。

## 「やる気」レポート！

新入生のみなさん、群馬高専へのご入学おめでとうございます。みなさんは、昨年度、興味のある進学先の情報収集から始め、保護者や先生方からのご助言やご指導を受け受験勉強に励み、周りの期待からのプレッシャーを跳ね除け、自分の夢を叶えるために群馬高専合格を勝ち取ったのだと思います。この過程は、大変苦しいものであり、今は開放感に満たされているかもしれません。しかし、私としては、今春卒業した5年生の担任であったせいか、卒業までの5年間は驚くほど短いと改めて感じています。新入生のみなさんは、本校合格まで緊張感の連続であったでしょうから、しばらくの間は、その緊張を解きほぐす時間も必要かと思えます。しかし、次の進路選択は、すぐにやって来ます。くれぐれも、群馬高専合格がゴールでないことを覚えておいてください。

校長補佐(広報戦略担当) 市村 智康

さて、私は広報戦略担当として、学校広報と入試広報について広報委員会を中心に取り組んでいます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、広報に関わる各種行事についても規模の縮小、開催時期の変更など例年と異なる対応を余儀なくされました。しかし、今年度は、そうした経験を踏まえ、引き続き感染症拡大の収まらない状況にも、十分な対応を行った上で、できる限り例年に近い広報委員会の運営を行っていく予定です。



新入生のみなさん、一緒に「やる気」をレポートしましょう！

## 将来のための準備を！



入学おめでとうございます。すでに幾日か過ぎ、ようやく学校の雰囲気がかかってきた時期だと思います。初めて出会う同級生や先輩と話すにも、きっと多くの気を遣い、気持ちが張り詰めていることでしょう。「初心忘るべからず」というように、今の新

校長補佐(評価・FD担当) 堀尾 明宏

鮮な、純粋な気持ちを忘れず、スタートしてください。この5年間は皆さんにとって、心身ともに成長する時期です。この5年間を何気なく過ごすのではなく、将来に向けての準備期間と思い、いろんなことにチャレンジして、多くを経験し、時には考え、悩み、乗り越えていってください。そして、その悩みを共有できるような一生つきあえる友達を作ってください。私たちは、そのサポートをさせていただきます。いつでも気楽に相談に来て下さい。

## 元気ですかー？元気があれば何でもできる！

後援会会長 吉野 正範



「元気でいるか 街には慣れたか 友達出来たか 寂しくないか お金はあるか 今度いつ帰る」43年前に発表された、さだまさしの案山子という歌の一節です。故郷を離れ都会で一人暮らす子を思う親の気持ちが表現されています。

皆さんはどうですか。高専には慣れましたか？

5年間は長いようですが、57歳になる私から言わせてもらうとあっという間です。将来の発展・活躍に向け基礎を築く高専生活を有意義なものにするには、単に慣れるだけではなく学習

習慣、早寝早起きといった良い生活のリズムを作ることが大切です。入学から1ヶ月が経ちました。まだな人は今日から始めましょう。まず1週間、強い意志を持って取り組みましょう。習慣になってしまえばしめたものです。まずは始めましょう。

友達はできましたか？

出身校は違っても、今ここに集えたことで既に仲間です。共に支えあい、高めあえる関係を築いてください。

そして最後に、元気ですかー？

元気があれば何でもできる！1、2、3、ダー！アントニオ猪木の言葉です。

たまには家族と会話してくださいね。

## ご入学おめでとうございます

学生会会長 3J 登坂 真伍

新年度が始まって約3ヶ月が経ちましたが、新入生の皆さんは群馬高専に慣れてきたでしょうか。皆さんの入学した高等専門学校という場所は、一般の大学と同じようなたくさんの自由があります。自分のことを自分らしく、何にも縛られることなく表現することができ、やりたいことを心ゆくまでできる学校です。群馬高専での5年間を使って、ぜひ自分のやりたいことを見つけてみてください。やりたいことは、自分がこうなりたいという単なる憧れからではなく、自分自身の経験から生まれます。10代後半の自由な時間に、様々なことに挑戦して多くの経験を積んでください。そしてやりたいことが見つかった時

に、それを実行に移すための専門的な技術や知識を惜しみなく学んでください。そうすることで、今まで漠然と思い描いていた自分の将来が、現実味を増してくるはずですよ。

皆さんが群馬高専を卒業する時に自信をもって先に進めるよう、実りのある5年間を過ごせることを祈っています。



## 入学式



【令和3年度】本科入学生出身中学校・専攻科出身学科一覧

Table with columns for Prefecture/City, School Name, and Student Count. Includes sections for 群馬県, 前橋市, 高崎市, 伊勢崎市, 桐生市, 安中市, 富岡市, 渋川市, 館林市, 利根郡, 吾妻郡, 甘楽郡, みどり市, 北群馬郡, 群馬県さいたま市, 埼玉県熊谷市, 埼玉県鴻巣市, 埼玉県深谷市, 茨城県, 東京都, 新潟県, 専攻科入学生出身学科, and 環境工学専攻.

留学生紹介

マレーシアからの留学生

3J アハド ファリス アドリ ビン ザリア (マレーシア)

はじめまして、3Jのファリスです。マレーシアにいます。群馬工業高等専門学校に入学する前に、2年間くらいマレーシアのインテックで日本語を習いました。インテックで日本について色々勉強して、面白かったです。残念ながら、コロナのせいで、今は日本に行けません。日本には小さい頃からの行き先でしたが、今まで機会がありませんでした。群馬工業高等専門学校に行くのが最初になります。日本の色々なことを楽しみたいです。特に日本文化です。よろしくお願ひします。



夢の如く

3K ガントルガ ビレグサイハン (モンゴル)

私は18歳の新しく入学した留学生ビルゲーです。美しく咲いている桜の下で新たな出逢いを待ちながらもうすぐ始まる学校生活を想像していました。憧れの日本に留学できて夢のように感じられます。アニメよりはるかにきれいで素敵な環境に囲まれた群馬高専に入学して「私はラッキーだな〜」と思いつつ、不安感を持っていましたが、皆さんの優しく暖かい雰囲気の中で生活に慣れてきました。未来を創る力を私たちは持っているのでお互い助け合って目指している夢のために

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏の暑サニモマケズ」頑張りましょう。



【令和3年度】本科・専攻科学校行事一覧

Calendar table showing school events by month from April to March. Legend: 本科行事 (red), 専攻科行事 (blue). Events include 入学式, 始業式, 授業開始, 健康診断, 前期中間試験, 球技大会, 前期定期試験, 夏季休業, 後期定期試験, 4年生社会見学旅行, 3年生研修旅行, 1・2年生研修旅行, 後期授業開始, 防災避難訓練, プログラミングコンテスト, 1~4年生保護者懇談会, 工華祭, ロボコン地区大会, 英語弁論大会, 後期中間試験, ロボコン全国大会, デザインコンペティション, 芸術鑑賞会, 冬季休業, 授業再開, 特別研究発表会, 卒業研究発表会, 後期定期試験, 特別研究I発表会, 学年末休業, 卒業式・修了式.



各クラス正担任からのメッセージと各クラス代表学生の入学にあたっての感想をいただきました。



(教員左から、副担任、山崎校長、正担任)



(教員左から、副担任、山崎校長、正担任)

Teacher

皆さんに伝えたいこと

1年1組 正担任 北田 健策

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。  
 この文を書いているのはちょうど入学から3週間経った時です。授業が始まり、90分授業にもようやく慣れて、入りたい部活動も定まってきたところでしょうか。入学からの日々は、予想以上に早く過ぎて、普段の予習・復習やレポートに追われていることだと思います。そんな皆さんに伝えたい言葉として「少年老い易く学成り難し」を送ります。私もまだまだ若い方ですが、年を重ねる毎に、様々な要因によって自由な時間は確実に減っていきます。自分は学生時代を精一杯生きていましたし、幸運にも持てる時間のほとんどはやりたいことに費やしたはずなのですが、今から思い返すと、あれをやっておけば良かった、これもやりたかったのに出来ていないなど、思い残すことは沢山あります。  
 若い時代の時間は想像以上にとても貴重で、何にでも挑戦できるし、失敗してもやり直しがききます。試行錯誤をしながら、間違ふことを恐れず、是非、自分のやりたいこと、目標へ近づいていってください。応援しています。

interview

Student

駆け出しの高専生活

1年1組(機械工学科) 星野 匠飛

群馬高専に入学し、新しく始まった学生生活はとても充実したものになると感じています。最初は緊張や不安もありましたが、徐々にクラスの雰囲気も和やかになり、新しく友達もできました。  
 私達は昨年度から新型コロナウイルスの感染拡大により、新しい生活様式を求められてきました。今までとは違う生活の中で始まった群馬高専での学生生活はコロナウイルス対策に加え、授業が90分になったり、学習内容の難しさが増したりと大きな変化がありました。どの教科においても新しく学ぶことが多く勉強方法や学習内容を理解するのは容易ではありません。ですが、同時に自分の学びたいことを学ぶことができる群馬高専での学習は私にとってとても楽しいものになっています。  
 コロナ禍が続いているためまだできることには制限がありますが、群馬高専での5年間を充実させられるよう勉強面でも生活面でも当たり前のことを当たり前に行えるよう心掛けて過ごしていきたいと思っています。

Teacher

すべてはゼロからのスタート

1年2組 正担任 谷口 正

縁あって群馬高専に入学された皆さんは全てをリセットし、今日から新しい気持ちで歩いていってください。過去の良き体験は心に留め、良くなかった出来事は忘れましょう。心理学者アドラーは「過去のことは問題ではない。これからどうするかで人は如何様にも変わることができる」といっています。すべてはこれからなのです。  
 こと勉強に関しては、中学校までの成績と、これからの成績には相関はありません。小学校1年生になった気持ちでスタートしてください。  
 数学の授業について、1年生前期は週に90分×4コマあります。前期だけで教科書の1、2、3、6章が終わります。新しい概念に圧倒されないでください。個々の内容は決して難しくありません。  
 勉強習慣をつけてください。そして、どうすれば理解できるようになるのか自分なりの勉強方法の確立を目指してください。各教科担当の先生のいう事をよく聞いて、自己流に走らず、模範を真似てください。どんなに独創的な数学者も良き模範を真似ています。良いものを真似ることが、独創的な研究に繋がっていくのです。

interview

Student

高専生活の始まり

1年2組(電子メディア工学科) 力石 玲央

群馬高専に入学して約2週間が経ちました。中学生の時とは違う環境や生活にも少しずつ慣れてきました。  
 入学式の校長先生や来賓の方々の話で「世界で活躍する」という言葉が何度も出てきました。私はそれを聞いて嬉しくなりました。この学校の学習は中学までや他の高校とは違うということを再確認したからです。自分の学びたいことを専門的に学べる。高専生活が楽しみになりました。  
 これから更に本格的な学習や学校行事、定期テストなど初めてのこともたくさん待っています。不安もありますが高専でできた仲間と助け合って乗り越えていきたいと思っています。  
 しかし、ときには私たちの力だけでは乗り越えられない問題もあるかもしれません。先生方、先輩方、私たちがそんな問題にぶつかった時は、力を貸していただけないでしょうか。これから、活躍出来る技術者になるため、頑張っていきたいと思いますので、よろしく願い致します。





(教員左から、副担任、山崎校長、正担任)



(教員左から、副担任、山崎校長、正担任)

Teacher

新入生の皆さんへ

1年3組 正担任 小菅 智也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校での5年間（あるいは7年間）、皆さんには是非いろいろなことに挑戦し、たくさん失敗し、そして精一杯楽しんでもらいたいと思っています。

本校には部活動、各種コンテストのほか、様々な研修に参加するチャンスが数多くあります。新しいことに積極的に挑戦し、色々な知識や技術、視点を身につけて欲しいと思います。

挑戦をする中で、失敗することもあるかと思いますが、しかし、失敗できるというのはある意味学生の特権です。たくさん失敗し、そこからたくさん学んでください。そのうち失敗が失敗ではなくなると思います。

そして、何をすることも自分なりの楽しさを見いだせるといいと思います。積極的に楽しめるようになると、何事からもより多くの経験値を得られると思います。

目まぐるしく変化する現代社会ですが、困難な状況にも柔軟に対応できる実力を身につけていって欲しいと思っています。

interview

Student

「変わるかどうかは自分次第」

1年3組(電子情報工学科) 中澤 啓人

遂に、待ちわびていた群馬高専へ入学することができました。今では授業も始まり、最初は「学科別の授業や、それ以外の科目もレベルがとても高いのでは…」と不安になる部分もありましたが、中身は高校生が受けているものと変わらないことにほっとしています。クラスの雰囲気も良く、しっかりと新たなスタートを切れたと思います。

高専に対するイメージの中に「専門的なことばかりやる理系の世界。入ったらそっちの道にしか進めない」というのがあると思います。実際、自分も入学前にそう言われていました。しかし、どんな道に進むのにもメリットとデメリットは生じるものです。どの学校に行っても、必ず得るものがあれば失うものもあります。

そう考えると群馬高専は「高校の勉強をしながら理数系に進む道を広げてくれる」良い学校だと思います。そんな学校で自分の強みを活かして成長し、恩師や地元中学校の同級生と再会した際に「高専入って良かったね。すごいよ!」と言われるよう、悔いのない学校生活を送りたいです。

Teacher

初心を忘れずに

1年4組 正担任 伊藤 文彦

新1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。群馬高専は群馬県一、自由な校風の学校です。是非、風通しのよい雰囲気を楽しんでください。しかし、勉強を疎かにしてはいけません。世界を股にかけて勇躍し、人類が直面する問題の解を出すという初心を忘れないでください。

自由を満喫してしまいすぎるあまりに、スマートフォンという情報の波に溺れ、課題やレポートの提出が遅れてしまう学生がいます。さらには、定期試験で思うような点数が取れない不自由さを感じてしまう学生もいます。将来、人生における金メダルを獲得することができるように、勉学を怠らないようにしましょう。1年生のうちは、保護者の管理のもと、スマートフォンを使用する方が良いでしょう。焦らず、弛まず、怠らずの精神を忘れないで、一步一步、着実に前進していきましょう! Never Stop Learning!

interview

Student

思ったんと違う

1年4組(物質工学科) 野村 みゆき

この春、私はめでたく群馬高専に入学しました。3年前、中学に入学してすぐに「理科が好き」という理由で高専に入学することが目標になりました。入学式の日、あこがれの群馬高専生の一員となれた私は、うれしい気持ちでいっぱいでした。

では、入学後の私はどうなったのでしょうか。私の群馬高専の印象は、「自立・自律」「勉強が難しそう」でした。そして私は、「数学が苦手」です。そのようなわけで、入学したらものすごく頑張らなくちゃ!と思っていました。教職員の方々は雲の上の存在で、クラスメイトはみんな優秀。孤独な自分との戦いになる!そんな覚悟でした。

ところが、全く違ったんです。教職員の方々、寮や部活の先輩、同級生、みんな優しく色々教えてくれました。新しい環境で学び、生活をする不安を解消してくれました。私は初めて「共に切磋琢磨し、学ぶ仲間」がいるという感覚を、この短い期間で得ることができたのです。

今は、物質工学科の課題である実験ノートを書くことに苦戦しています。(いつか慣れる日が来るのでしょうか?) これからも、入学式の日のように誇らしい気持ちを胸に、明るく楽しい仲間と共に充実した高専生活を送ってきたいと思います。





1年5組

(教員左から、副担任、山崎校長、正担任)



専攻科

(教員左から、副専攻科長、山崎校長、専攻科長、副専攻科長)

Teacher

interview

Student

それぞれのビジョンの実現に向けて

1年5組 正担任 宮越 俊一

1年生の皆さん。ご入学おめでとうございます。皆さんの年齢で、いくつかの選択肢の中から群馬高専とその学科を決めることは一大決心だったと思います。その決心に敬意を表し、皆さんを心から歓迎いたします。

十余年前になりますが、私はある企業の研究部門で二十年以上働いていました。そこには当時、全国の高専を卒業した同僚や後輩がいて、専門性を活かして活躍していました。私は高専卒ではありませんでしたが、彼らは頼もしい仕事上のパートナーでした。縁あって高専で、教育や研究に携わる機会をいただいていることを幸せに思っています。

皆さんは20代、30代に向けてどのようなビジョンをお持ちでしょうか。まだ決まっていない人がいても不思議ではないと思いますが、それをイメージして、そこに向けてどのような勉強や進路選択を知ればいいのか、考えながら取り組んでほしいと思います。大学に入ることが最終ゴールではないはず。皆さんのビジョンの実現に向けて、応援したいと思っています。

群馬高専に入学して

1年5組(環境都市工学科) 諸田 菜津希

コロナ禍での2度目の春を迎え、私たちは晴れて群馬高専の学生となることができました。

中学校の同級生の多くが3年間の高校生活を決めた中で、私はこの群馬高専で、5年間かけて専門技術を身に付けていく道を選びました。不安な気持ちも大きかったです。1ヶ月経った今では環境にも恵まれ、楽しい毎日です。

多くの人々が、何らかの意志を持って高専への入学を決めたと思います。私は、女性の活躍が多く見られるようになった現代社会で、「エンジニア」として、私たちの生活の基盤を作れるようになりたいという思いから、環境都市工学科へ入学しました。もちろん入学したことがゴールではありません。むしろ、ようやくスタートラインに立てたと思います。

これから5年間、沢山のことを吸収して自分自身の力にしていかなければなりません。夢を叶えるために、更なる努力を続けていきたいです。

Student

interview

Student

4年間の高専生活を終えて

生産システム工学専攻 1年 狩野 琢磨

「高専って4年間だけ？」という謎の質問を受ける日々が終わり「専攻科って何？」と聞かれる日々が始まった。「高専にもう2年通って学士号をもらい就職や大学院進学をする場所」と答えると、「大学院みたいなもの？」と返ってくる。大学院進学をすると言っているのですが、新型コロナウイルス感染が懸念される中、行われるかどうかともよくわからなかった自分にとって2回目の高専入学式で、中学校から卒業したての本科入学生がとてもハキハキして行動している姿を見て、なぜか我が子のようにほほえましく思ってしまった(歳をとったものだ)。自分の5年前も同じようだったのかと思うと、時の流れを強く感じる。しかし、我々専攻科生も同様に新入生。負けないようにハキハキして、2年間という短い時間に対して全力で取り組んでいきたい。

不思議な感じ

環境工学科専攻 1年 井澤 亮介

前回の学校だよりでは、「卒業にあたっての感想」というテーマで原稿を執筆した。そして今、「入学にあたっての感想」というテーマで原稿を執筆している。大きな不安に包まれていた5年前とは異なり、長い時間を共に過ごした仲間と迎えた入学式は、なんだか不思議な気持ちだった。それと同時に、同じ会場で卒業式が開催されて約一ヶ月が経過し、ついこの間まで一緒にいたクラスの仲間たちがいなくなってしまったことを実感して、少し寂しさを感じた。入学したことで卒業を実感するというのは、やはり不思議な感覚である。

専攻科では本科と異なり、ほとんどが選択科目となっているため、自分自身で受講する科目を決めなければならない。本科以上に自己管理や積極性が大事になるだろう。専攻科での2年間はあっという間に終わってしまうと思うので、悔いのないように時間を上手く使って過ごしていきたい。そして、ステップアップした環境で勉強と研究に励み、自分自身を高めていきたいと思う。



各学科の先生からメッセージをいただきました。

## 機械工学科

### 「学びを止めるな」

機械工学科長 櫻井 文仁



新入生の皆さん、機械工学科へ入学した皆さん、入学おめでとうございます。

タイトルにある「学びを止めるな」は、どこかの映画のタイトルをもじったものではなく、皆様への激励の言葉とともに、このコロナ禍においても「安心安全を保障したうえで教育の機会を提供する」という、教育の現場にいる私たちの意気込みでもあります。

ものづくりにおける学問や技術体系の中で、機械工学の担っている領域だけでもさまざまな学問があります。装置や道具を構成している筐体の材料の種類から始まり、持ち運びや万が一の落下の際の強度はどうか、その装置を動かす動力やエネルギーはなにを用いるのか、冷却水の流れやそれに伴う熱の移り変わりなどはどのようになるのか、挙げればきりがありません。しかし、すべてを理解しないといけないと気負う必要はありません。教員であっても、すべてを完璧に理解しているスーパーマンなんていないのです。自分の足りないところは、同じ領域で切磋琢磨する仲間たちと協力して解決すればいいのです。

ものづくりの話だけではありません。皆さんの学生生活に対しても、正にこの未曾有の状況を、協力して乗り切るうちはありませんか。

## 電子メディア工学科

### 電子メディア工学科新入生の皆さんへ

電子メディア工学科長 富澤 良行



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、入学から2ヶ月ほどが経ち中間試験も終わり、高専での勉強・生活に慣れてきたことと思います。

電子メディア工学科(E科)は、エレクトロニクスに関連する分野の学問(電子が絡む物理現象を、ものづくりに応用する勉強)を行う学科です。E科では、「社会の変革に負けない技術者を育てる」ために、基礎学力の習得に重点を置いた学習を行っています。さらに、専門科目として、「電子材料」・「情報通信」・「エネルギー」の3分野専門を中核に置き、基礎から応用までを系統的に学べるように、高学年に進むにつれ専門科目が多くなるように楔(くさび)形に授業科目を配しています。専門を修めるには、基礎からの地道な積み重ねが必要

です。皆さんには、毎日の継続した学習を期待します。

E科は、学習内容の成果が社会のあらゆるところに生かされ、日々の生活に潤いを与え、生活がこの上に成り立っていることが実感できる学科です。E科学生の進路となる科学技術の研究・開発・製造に携わる者は、成果が日々の生活に役立っている光景を目にします。研究者・技術者の冥利に尽きるところです。皆さんもぜひこの醍醐味を味わってみましょう。

## 電子情報工学科

### 「プラスアルファを目指して」

電子情報工学科長 大豆生田 利章



新入生の皆さん、おめでとうございます。この学校だよりが届くころには高専での生活に対していろいろな思いがあることでしょうか。さて、皆さんは電子情報工学科で何を学びたいのでしょうか。ほとんどの学生は「プログラムの書き方」と答えるでしょう。でも、それだけでいいのでしょうか？小学校では2020年から、高校でも2022年からプログラミング教育が必修化されます。これからは誰でもプログラミングを知っていることになり、「プログラミングができるだけ」では優位に立てない社会になると予想されます。このような時代に

自分の価値を高めるためには単にプログラミングができるだけではなく、プラスアルファを知っていることが求められるのです。電子情報工学科では学科名の「電子」の部分、電子工学がプラスアルファです。コンピュータ内部の詳しい動作原理やコンピュータを生かすための周辺機器の知識に関しても勉強します。在学中にプラスアルファも身に付け、本校を卒業したあとは日本だけではなく世界の情報産業を各方面から支える人となることを期待しています。

## 物質工学科

### 得意な(好きな)科目を見つけよう

物質工学科長 出口 米和



新入生のみなさん、ようこそ群馬高専へ、物質工学科へ。ご入学おめでとうございます。物質工学科では原子や分子、生物に関する基礎を学び、物質や材料を扱う材料化学、または微生物や生化学を扱う生物工学の分野を勉強していきます。4・5年生では材料化学コースと生物工学コースに分かれて、さらに学習を進めていきます。みなさん、ぜひ5年間の学びの中で自分の得意な(好きな)科目を見つけてください。得意な科目があれば勉強に前向きに取り組むことができます。また、得意な科目を友達同士で教えあうことで自分の理解もより深くなります。何よりクラスの友達が増えま

す。友達が増えれば高専生活も楽しくなります。

みなさんのこれからの高専生活が充実したものになり、大いに成長されることを願っております。

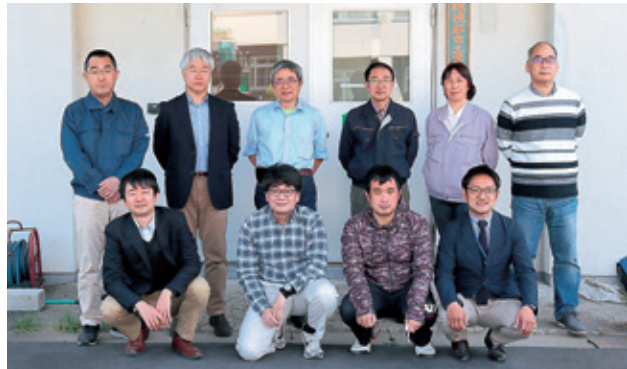
勉強で分からないことがあったり、困ったことがあったらいつでも訪ねて来てください。私達スタッフ一同はいつでもみなさんを応援しています。



## 環境都市工学科

### C科へようこそ

環境都市工学科長 先村 律雄



1年生のみなさん、ようこそC科へ。C科で、皆さんはこれから5年間、人々が社会生活をする上で必要な社会基盤に関する専門科目と技術を学びます。学校周辺には、国道、関越自動車道、利根川を渡る橋や上流のダム、鉄道、上下水道等の社会基盤があります。将来皆さんは、これら社会基盤の調査・設計・施工・管理・維持等ができるエンジニアになっていると期待しています。そのために、C科の教職員は、専門科目・実験実習・卒研を通して、みなさんの将来像を思い描きながら接します。C科では週に2回、放課後

にサポートセンターを開設していますので、上手に活用してください。高学年になると、国家資格である技術士一次試験(技術士補)を勧めています。昨年度は、4年生10名、5年生8名、そして専攻科3名の合計21名が合格しました。C科のみなさんはエンジニアの最高峰である技術士の資格を30歳前後で取得され、活躍の場を大きくして欲しいです。

C科はこれからも、みなさんのやる気や夢をできるかぎりサポートしてまいります。いっしょに楽しい高専生活にしましょう。

## 一般教科(人文科学)

### バランスよく学ぼう

一般教科長(人文科学) 伊藤 文彦



一般教科(人文)は、国語・社会・英語・体育から構成されています。いずれの分野も、豊かな人間性を育む上で大切です。古典を含む国語の授業は、母国語の訓練となるのみならず、言語的側面から先人の思想や文化を知る手がかりとなります。近い将来、日本人としての誇りを呼び覚ましてくれることでしょう。社会の授業は、世界の人々の生活、社会、人間文化、多様性(ダイバーシティ)、地球規模の諸問題を理解する手助けとなります。また、英語を用いて世界へ目を

向けることも、これからの若者には必要でしょう。人・物・金がグローバルに動く世の中では、海外出張や海外勤務がかつてないほど当たり前となっています。さらに、保健知識を含む体育の授業は、心身の健やかな成長に欠かせません。何事も健康があってこそ、充実した人生を送ることができるのです。片方の手に一般教養科目の知識を身につけ、もう片方の手に工学の知識を獲得しておけば、世界で通用する技術者・研究者になることができます。バランスよく学び、見識を蓄え、夢に向かって頑張ってください。

## 一般教科(自然科学)

### 「めっちゃフツーな自分をまるごと認めてあげよう」

一般教科長(自然科学) 宇治野 秀晃



中学校までの勉強では、なんとなく自信を持てた人も多いのではないかと思います。そんなフワとした自信、高専では持つのが少し難しくなるかもしれません。

上には上が、と同時に下には下で図抜けた人が、必ずいます。そういった上下で自分とまわりをつい比べてしまうのは、人間の自然な習性かもしれませんが、その結果は、嫉妬や自己否定、逆向きの場合には万能感、といった勘違いに陥りがちで、あまり自分自身を幸せにしてくれるものではないように思います。

そんな勘違いのドツボにハマりかけた自分に気づいたら、まずはそんな上でも下でもない、今の自分を「めっちゃフツーじゃん!」と認め、プラスの効用がある、自分にできることにフォーカスしましょう。また自分にできることは自分ひとりだけでできることとは限らないことにも、あらためて意識しておきましょう。適切な助言を適切な人に求めることも、自分にできることのひとつです。群馬高専のどこかに、親切な人は必ずいるはずです。群馬高専での学びの日々が、みなさんにとって実り多いものとなりますように。

## 教育研究支援センター

### 安全に実験・実習を行うために

教育研究支援センター長 出口 米和



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

高専に入学してからしばらく経ちますが、すでに実験・実習・設計製図などの授業が始まっていると思います。また、実験レポート等にも取り組んでいることと思います。実験・実習といった実践的教育が低学年から高学年までのカリキュラムに取り入れられているのが、高専教育の特徴のひとつです。このような実践的教育を通してみなさんに高い技術力を身につけていただくために、指導教員と技術職員の方々と協力しながら、実験・実習をサポートしながら進めています。群馬高専には5つの専門学科があります。幅広く新しい技術

を何よりも安全にみなさんに勉強していただくために、技術職員の方々はみなさんそれぞれの専門分野の技術を生かして支援してくださっています。

教育研究支援センターでは技術職員の方々を取りまとめて、それぞれの支援業務を割り当てたり、授業やその他の支援業務を管理運営しています。

みなさんが高専5年間で学ぶことを通して、高い技術力を身につけられるように安全にも配慮しながら支援を行います。どうぞよろしくお願いたします。



新学年になった学生へ、学年主任の先生方からメッセージをいただきました。

総務課(総務)

『総務課』をご紹介します!

総務課長 尾内 仁志



新入生の皆さん、コロナ禍での入学となりましたが群馬高専での学校生活は慣れてきましたか?

さて、皆さんは管理棟の1階と2階に「総務課」という事務室があるのを知っていますか? 学生課と違って皆さんにとってはあまり用事がない部屋かと思えます。そこで今回は、総務課の仕事について簡単に紹介したいと思います。

総務課はふたつの事務室に分かれています。ひとつは、管理棟2階に「総務」を担当する事務室があり、もうひとつは管理棟1階に「財務」を担当する事務室があります。

2階にある総務課(総務担当)は、【総務係】と【人事係】の2係で構成されており、主な業務は次のとおりです。

【総務係】入学式や卒業式などをはじめとした各種学校行事の実施や、学校の主な会議の開催、学校の広報などの業務

【人事係】教職員の採用や異動、給与計算及び教職員の研修などの業務  
一方で1階にある総務課(財務担当)では、【財務係】【経理係】【研究協力係】【施設管理係】の4係で構成されており、主な業務は次のとおりです。

【財務係】学校の予算や入学料・入試検定料・学生寮の寄宿料を管理する業務

【経理係】授業料の納入に関する業務、物品の購入・管理及び旅費や謝金の業務

【研究協力係】教員の研究推進や外部資金の獲得に関すること、地域企業等との連携や人材育成、技術支援等に関する業務

【施設管理係】学校環境の整備や土地・建物の維持管理の業務

このように総務課の仕事は、学生の皆さんが、日々快適に勉強することができるよう教育研究等の環境整備を行う役割を担っています。今後もこうした環境作りに努め、皆さんが修学・研究・課外活動・地域連携・社会貢献活動等について安心・安全に行えるよう全員で学校管理運営に取り組んでまいります。

総務課(財務)



学生課

「学生課」の紹介です

学生課長 湯本 直哉



群馬高専に学生課が設置されて約52年。学生課は、皆さんがより良い高専生活を送るためにはなくてはならない存在です。入学試験から始まり卒業や進学までの間にある全ての事柄に携わっています。授業はもちろんのこと、学校行事、課外活動のサポートや保健室と連携した健康管理、学生相談室の仕事もしています。また、学生食堂、購買、グラウンドや体育館の管理なども学生課で行っています。

コロナウイルスの感染拡大から1年以上が経ちましたが、まだまだ通常の学生生活に戻る事が出来ない状態が続いています。学生のみならず、日頃からの検温、マスクの着用、手指消毒、教室の換気や生活の場での密を避けるようお願いいたします。コロナ禍での学生生活で、

ストレスを感じる事もあると思います。一人でストレスを溜めることなく、早めに担任の先生、保健室や相談室を利用して誰かに相談して下さい。また、学生課でも相談事に対応していますので、どんな些細事でも構いませんので気軽に声をかけてください。

2学年

〈面倒くさい〉に気をつけましょう!!

第2学年 学年主任 大島 由紀夫



入学直後に休校を余儀なくされた昨年に比べると、私たちはcovid-19との付き合い方を徐々に理解し、対応する術を身に付けつつあります。感染予防を心がけながら、群馬高専の2年生として「すべきこと」に誠実に取り組み、「できること」を着実に遂行していきましょう。

私たちの前進を阻む強敵に「面倒くさいと思う(感じる)心」があります。それは学習面だけでなく、他者との人間関係をはじめとして、さまざまな局面で現れます。「メンドーだからいいや」「メンドクサイからやめよう」と忌避すると、その時は楽になったように感じられますが、結果的には事態の悪化を招いてしまうことが多いようです。

ですから、みなさん、〈面倒くさい〉が出現したら、くれぐれも気をつけましょう!!

4学年

進路選択の学年です

第4学年 学年主任 平井 宏



本学年は、皆さん方の将来にとって最も重要な年と言えるでしょう。進路選択については、本校では「何がやりたいのか」を明確にしていけることが一般的な対応と言えます。しかし、「やりたいこと」だけでなく「できること」も

大切に考えるべきであるという意見も最近聞かれます。それゆえに、進路選択にはいろいろなやり方があることを認識し、自分の進むべき道を主体的に選び取る必要があります。言い換えれば、自分の進路についての希望をより明確にし、具体的な進学先・就職先を決定していくことが求められるのです。教員はそのような学生への援助を惜しみません。

3学年

この1年の過ごし方

第3学年 学年主任 森田 年一



皆さんは、この1年をどのように過ごそうと考えていますか。卒業まで3年あるので「まだ、進路の事を考えるのは先でいいや」という感じでしょうか?

一方で、高校に進学した中学時代の同級生は、どのような1年を過ごすでしょうか。高校3

年生の進路先としては、就職・専門学校進学・大学進学等が考えられますが、これらは何を意味しているのでしょうか? 寿司職人になりたい人はお寿司屋さんへ、美容師になりたい人は専門学校へ、医師になりたい人は医学部へ進むというように、自分が生涯に渡って歩むべき道を決める1年であるということです。

皆さんも改めて自分の進路・将来ビジョンを考えることにより、後々、振り返った時に思い出の残る1年としてください。

5学年

この1年をどのように使いますか?

第5学年 学年主任 川本 真一



5年生にとっては、これまでの学生生活をどのように過ごしてきたかが問われる時期となりました。少しは卒業後の具体的な将来像が見えてきているでしょうか。あるいはさまざまな可能性を模索している最中かもしれません。人生の岐路に立つ状況だからこそ、

「ここまでの歩み」を振り返り、「今できること」と真摯に向き合い、「将来のこと」を見つめ直す良い機会かもしれません。

時間は人の都合とは関係なく過ぎていくものです。そして「この1年をどのように過ごすか」はきっと未来につながっているはず。それぞれが思い描くよりよい未来に少しでも近づけるよう、弛むことなく充実した日々を過ごすことを期待しています。



## 言語発話活動の促進とビートジェスチャー

一般教科(人文科学)嘱託教授 **福田 昇**

令和3年4月より、群馬高専一般教科(人文科学)嘱託教授として着任いたしました。専門は英語教育学で、ここ数年間はプレゼンテーション活動を通して英語力を高める方法を模索しています。特に英語プレゼンテーション活動中に生じるビートジェスチャーと英語力との関連について興味を持っています。

英語は日本人にとって第二言語です。聴衆を前に発表をするときジェスチャーをしながら発表する人がいます。興味深いのは「発表内容の説明とは全く関連性のない一定の振幅で手を上下して動かすビートジェスチャー」を行う人です。このビートジェスチャーが表出するのは、不慣れた英語を用いて人前で発表するときや、社会人基礎力の高い人に多く見られる傾向があることです。

ジェスチャーは英語ではボディ・ラングエージともいいます。つまり、人が体を使って伝えたいことを言語のように意識的に他者へ伝えようとする行動です。しかしながら、ビートジェスチャーそのものには何の意味もなく、ジェスチャーから他者へ伝えたい情報は無いのです。私は人間の行動はすべて何らかのことが関連しているという前提で考えていますので、群馬高専の授業でのみなさんの言語活動を活性化するための手段としてジェスチャーを今後とも調査して行きたいと思っています。



### Profile

- ① 出身地 群馬県高崎市
- ② 前職 長岡工業高等専門学校一般教育科(英語)教授
- ③ 最終学歴 上越教育大学大学院 教科領域言語教育コース英語専攻  
学位：修士(英語教育学)
- ④ 研究分野 第二言語教育語彙習得、  
社会人基礎力とプレゼンテーション活動
- ⑤ 趣味 油彩、DIY
- ⑥ 座右の銘 ダ・ヴィンチのように

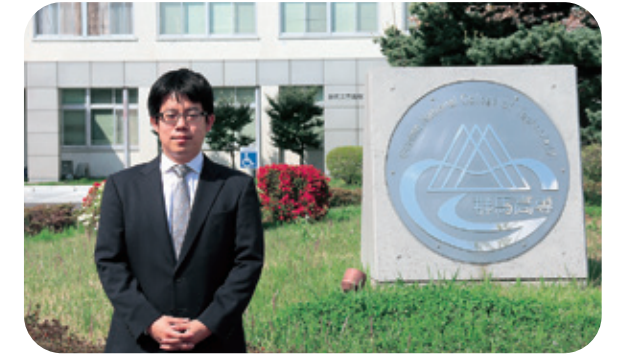
## 8年ぶりに

機械工学科 助教 **高山 雄介**

はじめまして！そして一部の教職員の皆様、ご無沙汰しております。令和3年4月より機械工学科の助教に着任した高山雄介と申します。私は2011年機械工学科卒、2013年専攻科修了の群馬高専OBです。専攻科修了後は東京工業大学大学院に進学し、博士課程修了後は日産自動車株式会社に勤務しました。そしてこの度、8年ぶりに群馬高専に戻って来ることが出来ました。8年の歳月を経た群馬高専は、新しい発見と懐かしさに満ちており、日々母校に戻ってきたことを実感しています。

さて私の専門ですが、高専を修了した後は一貫してアルミの鑄造に携わっていました。鑄造とは金属を融点以上に加熱し液体にした後に、型に流し込んで冷やし再度固体にすることで、複雑な形状の製品を簡単かつ大量に生産できる技術です。皆さんの身の回りにも実はあらゆる所に鑄造品は活用されています。

大学院では鑄造の考え方を応用した先端的なプロセス開発の研究を行い、企業では自動車のエンジン部品の生産技術開発を行っていました。こうした経験を少しでも学生の皆さんにお伝えし、母校に恩返しができるように頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします！



### Profile

- ① 出身地 群馬県前橋市
- ② 前職 日産自動車株式会社
- ③ 最終学歴 東京工業大学大学院 理工学研究科  
材料工学専攻  
博士後期課程修了  
学位：博士(工学)
- ④ 研究分野 アルミ鑄造・材料力学
- ⑤ 趣味 ドライブ・写真
- ⑥ 座右の銘 何を喋るのが知性で、何を喋らないのが品性

## この世はアナログかデジタルか

一般教科(自然科学) 助教 **延東 和茂**

「デジタル〇〇」、「アナログ〇〇」という言葉は普段の生活でよく見かけるといいます。デジタルはなんとなく機械的、アナログは自然的というイメージがありますが、本来のデジタルは1、2、3のように離散的な値をとるものを、アナログは0と1の間を含む連続的な値をとるものを意味しています。数学の単元に微分積分がありますが、これは連続的な値を対象とすることが多く、その意味でアナログな手法と言えます(古いという意味ではありません)。この微分積分を使うことで、自然や社会に関する様々な現象を予測することができます。

一方で、デジタルな手法を用いて物事の本質を理解しようという試みもあります。例えばソリトンと呼ばれる波がすり抜ける不思議な現象は、もともと微分積分を用いて研究されていましたが、0と1のデジタルな値だけを用いてその動きを再現するという研究もおこなわれています。

私自身は「デジタル」に軸足を置いて数学の研究を行っています。万物の本質がアナログなのかデジタルなのか、そんなことに思いを馳せつつ、数学を使って皆さんと一緒に面白いことをしたいと考え群馬高専に参りました。これからどうかよろしくお願いいたします。



### Profile

- ① 出身地 東京都世田谷区
- ② 前職 早稲田大学基幹理工学部
- ③ 最終学歴 早稲田大学大学院基幹理工学研究科  
数学応用数理専攻博士後期課程  
単位取得退学  
学位：博士(理学)
- ④ 研究分野 応用数学、セルオートマトン、離散可積分系
- ⑤ 趣味 銭湯、温泉
- ⑥ 座右の銘 一木一草に理あり

## 多機能ナノマシンとナノロボット

物質工学科 准教授 **アレクサンダー ルメノフ ルカノフ**

### 私の研究の要約

私の研究の目的は、ナノメディシン(癌の診断と治療用)や環境工学(エネルギー変換システム、エコテクノロジーなど)などのさまざまなアプリケーション向けの人工ナノマシンとナノロボットを設計および製造することです。これらのプログラムされたナノスケールデバイスの一般的な要件は、毒性がなく、外部エネルギー源(磁場、可視または近赤外光、電波など)によって制御されることです。それらは、ナノ粒子とハイブリッドナノ構造から構築されています。したがって、それらの設計は、すべての生体適合性ナノ材料と一部の生体分子の高度な独自の特性を利用して統合しています。ナノマシンとナノロボットは、個別化医療と高度な技術において将来有望です。

### 研究の展望

次世代の薬剤は、病気に対してより優れた選択性と特異性を備えたナノマシンに基づいて開発されます。これは特に悪性癌に当てはまります。

将来の先進技術は、環境保護と現在の従来のスマート技術の限界の克服の両方を必要とします。これは、ミニチュアナノマシンに基づく革新的なハイテクの構築によって達成することができます。

### 研究対象

悪性腫瘍および他の癌性病変の非侵襲的光線力学療法のためのナノ薬物療法。

環境に優しい太陽光発電ソーラーパネル。  
汚染された場所の環境モニタリングと浄化のためのエコテクノロジー。



### Profile

- ① 出身地 ブルガリア
- ② 前職 a)埼玉大学 化学 准教授  
b)University of Mining and Geology "St.Ivan Rilski" Professor in Biotechnology
- ③ 最終学歴 University of Mining and Geology "St.Ivan Rilski"  
環境保護のためのシステムとデバイス  
学位：博士(理学)
- ④ 研究分野 ナノテクノロジー、ナノバイオテクノロジー
- ⑤ 趣味 アート(帆布に油絵を描くことがよくあります)
- ⑥ 座右の銘 無し



# 着任挨拶

Arrival greeting

## コロナ禍でのソーシャルディスタンス

事務部長 **長塚 正明**



4月1日付、徳山工業高専(山口県)から配置換となりました。

コロナ禍の現状、あらゆる場面においてソーシャルディスタンスが求められていますが、人と人との関係は希薄になり、却って「窮屈」になってきた感があります。

私が単身赴任した約10年間の中で、今年は初めて「ひとり」で新年を迎える状況となりました。家庭との距離、凡そ800kmのソーシャル…を保ったこととなります。結果、1年以上自宅への帰館は叶いませんでした。

学びの場においても、学生同士の触れ合いが少なくなっ

てしまった現実を突きつけられ、本当にやるせない思いで一杯になります。学生期における仲間との繋がりが、生涯続く関係もあります。私どもは、学生の皆さんがそうした大切な時を過ごす中で、学校生活の思い出を少しでも残せる様、学修環境の整備等の支援に努めてまいります。勿論、ソーシャル…にも配慮しますので、よろしく願いいたします。

## 「皆さんをサポートします」

学生課長 **湯本 直哉**



令和3年4月1日付けで着任いたしました学生課長の湯本です。3月までは群馬大学研究推進部で産学連携に関する仕事をしていました。群馬高専での勤務は初めてになりますので少しでも早く仕事に慣れて、お役に立てるよう頑張ります。

私は出向元の群馬大学を含め、入職して30年になりますが、その半分を教務事務、学生支援事務、入学試験事務で過ごしてきました。学生と話すこと、学生が喜ぶことが大好きで、群馬高専でも学生に関わる仕事ができることに大き

な喜びを感じています。学生の皆さんが大過なく学生生活を送り、それぞれの希望する会社や大学進学に向けて頑張る姿を応援していきたいと思えます。これまでの職務経験を生かしながら、皆さんの立場にたって取り組んでいきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 実験を楽しみましょう

教育研究支援センター 技術職員 **大田 陽介**



初めまして。令和3年4月から教育研究支援センターの技術職員に着任しました大田 陽介(おおた ようすけ)です。主に環境都市工学科の実験実習の支援を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は平成19年に群馬高専の環境都市工学科を卒業し、卒業後は特装車両メーカーに勤務していました。前職では主に製品の試験業務に携わっていたため、その経験を活かして皆さんのお役に立てればと思っています。これまで様々な実験を経験してきましたが、群馬高専で学ぶ実験は、工学の理解が深まるとも貴重な授業だと思います。学生

の皆さんには、理論と実体験が結びついた時の楽しさを感じながら学んでもらえるよう支援していきたいと思っています。教育の現場は初めてなので、ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、早く皆さんのお力になれるよう努力していきます。また、どこかで見かけたら気軽に声をかけていただけたら嬉しいです。よろしくお願いいたします。

# 各施設から

## 学生相談室

### 気軽に相談室へどうぞ

学生相談室長 **谷口 正**

この4月から、学生相談室では、新しいカウンセラーの先生が2名着任されました。中村カウンセラーと田村カウンセラーです。相談室は次のようになりました。月曜日は内山カウンセラー、火曜日は中村カウンセラー、水曜日は内山カウンセラーと田村カウンセラー、木曜日は内山カウンセラー、金曜日は内山カウンセラー。相談室員山内先生、大岡先生と私はいつでも教員室にて対応可能です。保健室では、藤川看護師と伊藤看護師が対応しています。学生支援係は、新平さんと南野さんが対応してくれます。お気軽に相談室をご利用ください。

また、学校適応感尺度調査を実施しています。「学生が抱えている不安や悩み、問題などを初期の段階から把握し、状況に応じた支援をする」を目的としていて、担任や学生相談室による面談と合わせて実施します。学生と保護者の皆さんに、ご理解とご協力をお願いします。



後列：相談員、相談員、インターカー、インターカー  
前列：相談員、室長、相談員

## 着任挨拶



学校カウンセラー  
**中村 達生**

新任カウンセラーの中村達生です。大学卒業後は臨床心理士を志し、県内外の精神科病院などで約30年間にわたって研鑽を積んできました。進路に悩んだり、生きる意味が分からなくなったりして、焦りや不安、抑うつなどを覚えている人もいられるかもしれません。心の苦痛を低減して、自分らしく生きるお手伝いを、これまでに培った経験や知見から提供できればと思っています。どうか気軽に相談にいらしてください。



学校カウンセラー  
**田村 朋子**

はじめまして!今年度の4月から学生相談室のカウンセラーになりました、田村です。皆さんの学生生活は楽しいことや夢中になることがたくさんある反面、悩むことや気持ちがしんどくなることもあるかもしれません。そんな時に、相談室に来て、お話をしてもらえたらいいなと思います。よろしくお願いいたします。

## 学生相談室を利用しよう

### 《学生相談室を利用するには》

- ◆直接入室するか、保健室に連絡してください。(保健室でも相談できます。)  
☎027-254-9065(相談員 藤川<看護師>)
- ◆保健室が不在の際は、インターカーに連絡してください。  
インターカー ・新平美由紀(学生支援係)  
・南野 健(学生支援係)  
☎027-254-9057(学生支援係インターカー)  
※インターカーとは…  
相談を希望する学生や関係者の話を最初に聞き、援助のしかたを判断する人のことです。話の内容によって適切な相談先(カウンセラー・相談員・校医など)に取りつぎます。
- ◆相談室開室時に電話で予約できます。  
☎027-254-9067(相談室直通)  
☎027-254-9154(相談室長 谷口)
- ◆電子メールでも予約できます。  
✉ [soudan@gunma-ct.ac.jp](mailto:soudan@gunma-ct.ac.jp)
- ◆家族の方からの相談も受け付けています。

### 《開室日と担当者》

- 月曜日 15:00~18:00  
内山カウンセラー
- 火曜日 15:00~18:00  
中村カウンセラー
- 水曜日 12:00~15:00  
内山カウンセラー  
15:00~18:00  
田村カウンセラー
- 木曜日 15:00~18:00  
内山カウンセラー
- 金曜日 14:00~17:00  
内山カウンセラー
- 相談員(看護師)については、保健室で相談出来ます。
- 不定期(必要に応じて)\*要予約  
河合カウンセラー



# 各施設から

## 図書館

### 図書館長あいさつ

図書館長 神長 保仁



本年4月より、大島由紀夫先生の後任として図書館長を拝命しました。よろしくお願いいたします。

さて、本校の図書館には11万冊余り（うち洋書約1万冊）の蔵書があります。このうち44%は理工系の書籍で、その多くは専門書です。理工系書籍をこれだけ所蔵している図書館は群馬県内にそう多くはありません。本校の図書館は地域における重要な知的インフラの一つになっています。中学校や高等学校の図書室・図書館や一般の公立図書館とは違った、アカデミックな雰囲気を感じることでしょう。

高等教育機関の図書館は、知の総合拠点としての役割を担っています。すなわち、学生の学習だけではなく、教員が教育・

研究活動を行う上で必要な学術情報も提供しています。昨年度は、コロナ禍における対応として、図書館の機能を一部制限せざるを得ませんでした。この対応は今年度も継続することになりそうです。限られた条件の中ではありますが、本校の図書館が利用者にとってより快適な空間となるよう、努めてまいります。多くのおみなさんのご利用を心よりお待ちしております。

## ダイバーシティ推進室

### ダイバーシティとは？

ダイバーシティ推進室長 櫻岡 広



「ダイバーシティ」とは何でしょうか？最近では何でもかんでもカタカナにして、もう少し日本語を大切にしろよと思うことが多いですが、「多様性」という意味です。麗澤大学・木谷宏教授の定義では、「外見上の違いや内面的な違いにかかわらず、すべての人が各自の持てる力をフルに発揮して、組織に貢献できるような環境を作ることであり、人種、国籍、言語、性別、年齢、容姿、障害の有無などの外見的な違いだけでなく、価値観、宗教、生き方、考え方、生活、性的指向、趣味、好み、働き方、さらには時間制約といった様々な内面の違いや個人の事情をも受容することである。」としています。

ただ、これは日本国憲法第14条に書かれていることと同じよう

に思います。第14条の主語の「すべて国民は、」を「すべて人は、」に置き換えると上の定義と同じであるように思います。「ダイバーシティ」とは、新しい概念のようであるけれども、古くから人間が求めているものなのではないでしょうか。逆に言うと、日本は理念を掲げているけれども、それを実現できていない国、ということもできます。

異性・異国人・異人種・異宗教といった、自分と違うことを認められる「寛容性」。多くの人がこれを持つことが、「ダイバーシティ」推進の第1歩だと思います。

## 情報基盤センター

### 多要素認証が完了しました

情報基盤センター長 布施川 秀紀



近年、高専機構ではMicrosoft365のアカウント乗っ取りによるインシデントが発生していることから、Microsoft365のサインイン時の多要素・多段階認証（Multi-Factor Authentication、略してMFA）の導入を教職員については令和2年度中に、学生については令和3年度中に完了することになっていました。みなさんの協力のおかげで、令和2年度末で学生・教職員全員にMFAの導入が完了しました。他高専においては、各ユーザに対して設定変更の説明会などを実施したところもあるようですが、本校ではそのような説明会を実施してないにもかかわらず、大きな混乱もなく新年度を迎えることができました。新入生についても、アカウント発行時からMFAが導入されており、入学準備の段階で「スマホなどの準備」をお願いし、入学後一週間程度でほとんどの学生がMicrosoft365を使い始めることができたようです。

## インターンシップ支援室・進路支援室

インターンシップ支援室長 進路支援室長 大和田 恭子

### コロナ禍でインターンシップが変わる

新型コロナウイルスが未だ猛威を振っている状況から、今年度のインターンシップは全日オンラインのもののみ参加可能となりました。新年度開始後の変更ですが、どうしたら安全に実施できるかを考慮しての方針です。どうぞご理解ください。コロナ禍によってインターンシップの実施形態もオンラインを導入する企業が増える傾向にあり、就職の面接にもオンラインが多く導入されています。限定された中での実施ですが、インターンシップを希望する学生は、様々な最新情報を掲載している「インターンシップ支援室ホームページ」（学内末端のみアクセス可能）の情報をよく確認して活用してください。

### 進路選択には自発的な行動を

進路支援室は進路選択のうち、主に進学に関する情報を提供

しています。大学編入学の過去問は図書館に、募集要項は学生課に取りまとめてあります。また、本校HPの「進学・就職情報」に大学編入試験日程一覧等の情報がありますから是非参考にしてください。各科に進路指導教員（進学担当）がおり、相談もできます。進路選択は人生にとって重要な選択の一つです。自ら情報を集め、自発的な行動が大切です。年度後半に、大学の先生による大学編入学試験説明会も開催しますので積極的に参加してください。



## 国際交流室

### 国際交流室

国際交流室長 崔 雄



今年も COVID-19 の世界的な蔓延により、本学校の国際交流プログラムも正常に行うことができない状況です。毎年行われていたオーストラリアの語学研修はキャンセルになりました。来年には COVID-19 の全世界的な蔓延がなくなり、計画通りに各種の国際交流プログラムや語学研修ができると思います。国際交流室では、状況が改善され、国際交流が円滑に行われることができる条件が満たされた時、皆さんに国際交流プログラムや語学研修が充実に進むことができるように最善の努力を尽くして行きます。

## 校内風景





## 高等教育セミナー

## 高専教育の課題と展望

教育研究委員長 堀尾 明宏

令和3年3月2日(火)「高専教育の課題と展望」と題して、仙台高等専門学校校長福村裕史先生をお招きし、高等教育セミナーをオンライン形式で実施した。教員、職員含め71名の参加であった。講演内容は、高等教育の質的变化、オンライン授業、高専の課題、世界の技術者教育から見た将来の可能性と幅広い角度であった。18歳人口は、約40年間で半数になり、日本社会において高度技術者の不足とグローバル化に対応できる人材の育成の重要性を挙げられた。また、今後高専に必要なこととして、研究力の強化、高度化、グローバル化の実質化、地域連携の強化を挙げられた。高専教育は大学と異なる人材育成に興味があり、さらに、グローバルな工学教育には社

会との対話の重視、課題発見、解決法の探索が求められると述べられた。米国MITなどから始まったCDIDは、このような技術者養成システムであり、日本の高専の将来を考えるうえでも有益なシステムであると述べられた。多くの先生から高い満足度評価をいただいた。



## 令和2年度厚生補導研究会報告

## 厚生補導研究会

学生主事 櫻岡 広

令和2年3月17日(水)14:00から、J科棟大講義室での対面およびTeamsでのオンライン併用で、令和2年度厚生補導研究会が「学生の自殺予防について」というテーマで開催されました。講師は「群馬県心の健康センター」の富田恵子保健師と鈴木紋子保健師です。本来は、令和元年度に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染が広まり始めた時期と重なってしまったため、1年遅れでの令和2年度開催となりました。

講和の最初の部分では、いろいろなデータを紹介していただいたのですが、その中で「やはり!」と思ったのが、若年者の自殺の原因の約半数は「不明」ということでした。これは、本校での過去の事例とも一致しています。

そこでいつも考えるのが、芥川龍之介が自殺する前に友人にあてた手紙の中で書いている一節です。自殺する理由を「将来に対する漠然とした不安」と述べています。多くの人は、そんな理由で死ぬのかと思うと思います。私もそう思うのですが、でも事実です。そう思っている人の自殺を思いとどまらせるのは非常に難しいことのように思います。

でも、「将来に対する漠然とした不安」を持つのなら、「将来に対する明確ではない希望」や「将来に対する漠然とした期待」等も持っているのではないのでしょうか。明確な目標というのは、あるに越したことはないですが、すべての人にそれが当てはまるとは思いません。「漠然とした目標」でも「目標はいつか見つかるであろう期待」でも良いと思います。



## 第14回高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト 第3位

## 英語弁論大会を終えて

「全国大会出られたら焼肉行けるかもしれないよ。」私が英語弁論に出場しようと思ったのは、小菅先生のこの一言がきっかけでした。全国大会に出場して焼肉を奢ってもらぞという固い意志を胸に、英語弁論大会に挑戦することを決意しました。その勢いで臨んだ校内予選は運よく通過することができ、小菅先生と共に全体の構成、プレゼンテーション資料を練り直しました。様々な方の協力もあり、関東大会では2位、その後の全国大会では3位という結果を残すことができました。今年は対面での発表ではなく録画の提出だったのでより完成度を高めたプレゼン作りに集中できたという点で大変恵まれた年だったと思います。また多くの人

5M 村上 森音

の協力を頂いて、一人では決して得ることのできない結果も得ることができました。また次回の弁論大会では是非チーム部門に挑戦したいと考えています。複数人で発表することの難しさがあると思うので楽しんでいきたいと考えています。



## 第6回朝日中学生高校生フォトコン 奨励賞受賞

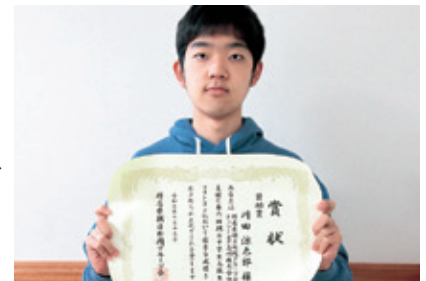
## Selfie

この度、朝日中高校生フォトコンテスト2020にて、奨励賞を受賞しました。私が応募した作品「ドヤ食い」は、尾瀬へハイキングに行った時に撮ったものです。休憩中にソフトクリームを食べようとした瞬間を撮りました。写真のコンテストで入賞したのは初めてなので、とても嬉しかったです。応募にあたり、写真の印刷などを協力してくれた先輩には感謝しています。今回の受賞を自信にして、さらに頑張っていきたいです。余談ですが、作品名を「ドヤ



写真部 3E 川田 涼太郎

食い」にするか「ドヤ喰い」にするか、かなり迷ったのですが、「喰い」だと捻り過ぎている気がしたので、「食い」に決定しました。写真の応募では作品名のセンスも選考に関わってくると(私は)思っているので、頑張って撮った写真の魅力を上げるためにも作品名はしっかり検討した方が良いと思います。



## 日本海水学会若手会 第12回学生研究発表会 優秀賞受賞

## 広い世界を知る

令和3年3月に開催された、日本海水学会若手会第12回学生研究発表会で優秀賞を受賞しました。専攻科1年生は、受講科目数が多く、加えて昨年度は新型コロナウイルスの影響で約3ヵ月間オンライン授業が行われたため、自分の思い通りに研究を進めることができませんでした。しかし、日々の先生とのディスカッション、ゼミ、報告会に手を抜くことなく真剣に取り組むことで、自分の研究への知識と理解、愛を深めることができました。

今回参加した学会では、オンラインで口頭・ポスターの両方の発表を行いました。初めての学会であり、特別研究I発表会の1週間後に行われたため準備には苦戦しました。

2AE 木村 一輝

実際の発表では、大学院生の方々が多く参加されていて研究のレベルの違いを痛感し、また、ポスター発表では多くの先生方からご質問、ご意見をいただき非常に良い経験となりました。高専の狭い世界に囚われることなく、今後も積極的に学会に参加していきたいと思っています。





## 実習工場改修

## 「新生機械実習工場のスタート」

機械工学科長 櫻井 文仁

皆さんは群馬高専に機械工場があるのをご存じでしょうか。機械工学科の学生であれば、実習等で利用しているので知っているでしょうが、残りの8割の皆さんは、「そういった、群嶺会館の北側にそんな名前の建物があったような、なかったような」といった感じかもしれませんね。

確かに去年までは、古めかしく、今では珍しい鉄製の窓枠のガラス戸のはまった平屋風（実は一部分ではありますが、中2階がありました）の建屋があるという雰囲気のものでした。なにせ、群馬高専設立当初からの建屋で、半世紀にわたり、外観的な大きな改修は一度も行われないうままでしたから。しかし、念願かなってようやく今年の3月に機械実習工場は生まれ変わりました。大きく変わったのは外観だけでなく、エリア分けされて安全に実習を

行うことができるようになった整理された機器配置にあります。「安全に実習を」と書きましたが、これまでも実習自体は十分に安全に配慮して実施されておりましたが、直近の懸案事項としては、工作機械は重くその移動にも多くのお金がかかるため、この50年の中で古くなった機械の入れ替えのタイミングで思うように機械の再配置が行えず、有事の際に学生が退路等に集中したときには十分に安全が確保できているとは言いづらい場所もありました。

利用するしないにかかわらず、ぜひ一度実習工場に足を運んでみてください。明るい工場内に整然と並んだ工作機械を見ると、何やらワクワクしてくると思いますよ。（いや、私がオタクなのか？）



## 「学生の国際交流・学習のための寄付金の募集を開始しました」

グローバル化した今日、語学力を中心とした国際感覚の獲得が求められていますが、海外での短期語学留学や学会発表等には多大な自己負担が生じています。さらに、海外から受け入れた留学生に対す

る経費も十分ではなく、国際交流経費の増額が求められております。これらの問題を解決する一助として、本寄附金の募集を開始しました。詳細は、本校HPの「学校からのお知らせ」をご覧ください。

## 新任者紹介(事務職員)

★採用年月日

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 長塚 正明<br>(事務部長)<br>★令和3年4月1日        | <input type="checkbox"/> 下田 啓祐<br>(総務課総務係)<br>★令和3年4月1日   |
| <input type="checkbox"/> 湯本 直哉<br>(学生課長)<br>★令和3年4月1日        | <input type="checkbox"/> 木村真珠美<br>(総務課人事係)<br>★令和3年4月1日   |
| <input type="checkbox"/> 野村 恵子<br>(総務課課長補佐(総務))<br>★令和3年4月1日 | <input type="checkbox"/> 野口 周作<br>(学生課教務係)<br>★令和3年4月1日   |
| <input type="checkbox"/> 榎本 浩行<br>(学生課学生生活係長)<br>★令和3年4月1日   | <input type="checkbox"/> 柴原 秀幸<br>(総務課施設管理係)<br>★令和3年5月1日 |

## 離任者紹介(事務職員)

★転出年月日

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 亀原 正美<br>(事務部長)<br>★令和3年3月31日        | <input type="checkbox"/> 小林 宜徳<br>(総務課経理係長)<br>★令和3年3月31日   |
| <input type="checkbox"/> 鈴木 伸一<br>(学生課長)<br>★令和3年3月31日        | <input type="checkbox"/> 矢島 美和<br>(学生課学生生活係長)<br>★令和3年3月31日 |
| <input type="checkbox"/> 村田 謙一<br>(総務課課長補佐(総務))<br>★令和3年3月31日 | <input type="checkbox"/> 榊原 亘<br>(総務課施設管理係主任)<br>★令和3年3月31日 |
| <input type="checkbox"/> 森山 校子<br>(総務課人事係長)<br>★令和3年3月31日     | <input type="checkbox"/> 上松百合子<br>(学生課教務係)<br>★令和3年3月31日    |

## 編集後記



昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、6月の「入学・進級特集」号を見送り、6月12月合併号として発刊させて頂きました。令和3年度も、未だ全国的に新型コロナウイルス感染症拡大が続いている状況ではありますが、群馬高専では、昨年度の経験をもとに、感染症対策を行いつつ、ほぼ全ての行事を実施しており、この第123号「学校だより」も無事に発刊となりました。コロナ禍の中、ご寄稿頂いた皆様をはじめ、担当業務引継ぎ等でお忙しい中、取りまとめやご編集を行って頂いた大和田先生、高橋先生、ならびに学生課高橋様、総務課下田様にお大変感謝申し上げます。(広報委員長 市村 智徳)